

2011・平成23年

復習用現代語訳

六つの経典が学問について述べたのは、書経の中で武丁むつていが説えつに（徳を修める方法を）たずねた故事が最初である。しかし学問の方法を論ずるにあたって説えつは「遜そん」および「敏」としか語っていない。「遜」とは、自分は「謙退」であろうとしているが、なおそれができていないようだと考えることである。「敏」とは、自分は「進修」であろうとしているが、なおそれが不十分であるようだと考えることである。（今述べた「謙退」の）「退」は謙虚な態度で人から教えを受けることであり、（「進修」の）「進」は努力して自分を激励（し自ら修得）することである。もちろんこの二つはどちらが欠けてもいけない。

孔子は大聖人であるが自分を聖人とは考えなかった。だから、「私は生まれつき知る者ではない。」と言ったのは「遜」と言える。しかし一方で「（私は）古いにしえの教えを好み、『敏』の態度でそれを探求する者である。」と言っているが、そうだとすると、孔子が古いにしえの教えを追い求めるに当たって、どうして「敏」を貴ばなかったことがあるのか。（当然「敏」を尊重したに違いない。）ある日孔子が顔回がんかい・曾参そうさんの二人と仁および孝について語った時、二人とも、自分たちは「敏」で

はないと言った。これで両人の「遜」はよくわかるのだが、そもそも顔回の仁についても曾参の孝についても（他の）三千の弟子たちはこの二人に及ぶことができない。だから、顔回・曾参がどうして「敏」でない者だろうか。（彼らは当然「敏」なのだ。）

もし自分を卑下するばかりで積極的に学ぶ手段を考えないならば、それは退くことを知って進むことを知らないのである。思うに、「遜」は美德ではあっても、「敏」であり続けるならば効果がある。したがって、学問の方法において最も重視すべきは「敏」である。※「しかし世の学者はほとんど他人の教えを受け入れている『遜』だけだ。なんと情けないことか！」というのが筆者の真の主張だろう。なお、今の日本の経済学はアメリカの、社会学はやはりアメリカの、情報処理もアメリカの、法律学はいまだにドイツの教えをそれぞれ受けている。

音読用書き下し文

六経りくけいの学を言ふは、肇はじめて武丁ぶていの説えつに命ずるに

見ゆるも、而しかれども学を為なすの道を論じては、遜そんと曰いひ敏と曰いふのみ。

（而已のみ」「p136）遜そんとは其その謙退けんたいせんと欲ほつして能あたはざる有あるがごとくす

るなり。（出題者は「遜そん者」の「者」を置き字とし、読みを与えて

いない。これは概念を定義する時の訓読法。「遜者」「遜者」も同

じ。敏とは其の進修せんと欲して及ばざる有るがごとくするなり。退くは則ち虚しくして人に受け、進むは則ち勤めて以て己を励ますなり。二者は固より偏廢すべからざるなり。

孔子は大聖人なれども自らは聖とせず。故に「我生まれながらにして之を知る者に非ず。」と曰ふは、遜と謂ふべし。然り而して又た「古を好み以て之を求めたる者なり。」と曰ふは則ち其の之を求むるや、曷ぞ嘗て敏を貴ばざらんや。他日顔・曾二子と仁と孝とを言ひて、二子は皆自ら敏ならずと謂ふ。其の遜なること抑見るべし。回の仁・参の孝も、三千の徒、未だ之に先んずること能はず。豈に真に敏ならざる者ならんや。

苟しくも徒だ自ら卑しむるを為して自ら強むる所以を思はざるは、是れ退くを知りて進むを知らずと謂ふ。蓋し遜は美德と雖も、然れども必ず敏ならば則ち功有り。是れに由りて之を言はば、則ち学を為すの道、重んずる所は尤も敏に在るなり。

【主張をつかむ】

ステップ1 最初の2行を読む

傍線Aの前まで読むと、1行目の下から、「遜と曰ひ、敏と曰ふ」とあるので、「対比に注意！」により、筆者は「遜」と「敏」を対比さ

せて主張を展開するはず。

ステップ2 最後の3行を読む

オシリから 読むとわかるよ お結論 E10

早読みは 最初と最後に 主語述語 E6

うしろからながめると穴埋め□が二つあるので、読むのを停止。最後の3行の最初(10行目)を見る。楽をするために、最初の主語と最後の述語だけ見る。「主語自らいやしむるを為して自らつとむる所以 ゆえん」
162を思わざるは…述語進むを知らず」

ステップ3 最終設問の選択肢を見る

最初と最後で 筆者は主張 E3

という原則により、最終段落(ここでは第三段落)は「筆者の主張」のはず。そこで問6(i)の選択肢を見ると、「筆者の主張」を言い換えた言葉のある①「第三段落は筆者自身の見解」と③「第三段落は筆者の見解の優越性の主張」が正解候補。

ここで退却するが、第一段落にもどるのだから①「第一段落は本論の主題となる語についての定義付け」と③「第一段落は本論の主題となる語についての筆者自身の見解」はしっかり見る。

傍線Aにもどると、「遜とは○○。敏とは●●」。そして傍線を訳

した問2の選択肢は「…とは…である。」。これは定義する言い方だ。

③の「見解」ならば傍線Aは「…については…と考えられる」という文のはず。これで問6(i)の正解が①に確定。

問6(ii)の「筆者の意図」は三つの穴ポコを埋めてからだ。3分たつたし、一問解けたので完全に退却。三つのステップでわかった筆者の主張の一部は、「卑下するのは進むを知らない。『学問をするには』(ii)

の選択肢、謙遜と俊敏が…。「これだけだが、これで十分。これが大事。」

問1熟 (1) 受験のウラわざ「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」ニで解く。「偏」で普通に思い浮かぶ熟語は「偏見(かたよった見方)」だ。そして「偏廢」の「廢」は「廢止」。傍線部を含む一文の書き下し文は「二者は固もとより偏廢すべからざるなり」であり、「二つは偏廢してはいけない」だから、⑤「片方だけ」は「片方だけ↓一方だけ↓かたよった」となり、一文は「二つ(において)は片方だけ(を) 廢止してはいけない」となるので⑤が正解。

問2漢 「不ず能あたへ」レの訳は「できない」なので、①③「できそうにない」か②「できていない」。「如」ユの読みと訳は「ごとシ・ようだ」なので選択肢②の「できていないようだ」が正解。

探求する人のための補説

質問 ①③「できそうにない」の「…しそうだ」は「ようだ」と同じで

はないのか？

解答 日本語「…しそうだ」は**将来**の事態の予測であり、漢文では「將に…せんとす」に当たる。一方、日本語「…ようだ」は**現在の**状態の形容であり、これが漢文の「如しごと」にあたる。

質問 「ようだ」は現在の状態の形容だと言うが、「もう行くようだ」は将来の事態の予測ではないのか？

解答 「もう行きそうだ」は将来の事態の予測なので切迫感があるが、「もう行くようだ」は「もう行く」という現在の状態の形容なのでノンビリしている。

問3 主張シヤ 早読みは 最初と最後に 主語述語ヲ を多用する。
第一段落の最後は「二者」であり、その二者が最初の文の末尾によって「遜」と「敏」であることはわかる。次に第二段落で孔子を話題にして「遜」と「敏」を論じていることもわかる。しかし短時間ではBがよくわからない。そこで第二段落の最後の傍線Cを機械的に翻訳した。なぜなら第二段落は、

主語 孔子……………述語 B。

主語 (孔子は) 他日……………述語 C。

という構造であり、論文の論理は常に単純なのでB||Cのはずだか

らだ。

傍線C「豈あに真まことに敏ならざる者ならんや」は「反語はこれだけ語尾のンヤ」⁹⁵により、「どうして本当に敏でない者か。いや、敏である者だ。」となる。傍線Dは第二段落のオシリであり結論なので、オシリから 読むとわかるよ お結論きりにより筆者は「遜」と「敏」の「二者」のうち「敏」を重視している。そこで正解は(ii)③「どうして『敏』を貴たつとばなかったことがあるか。(いや、敏を貴んだ)」。そして(i)は自動的に「どうして敏を貴たつとばなかったことがあるか、いや」↓曷なんぞ敏を貴たつとばざらんや」の④。

読みから(i)を確認するとたいへんな作業になる。傍線B「貴たつと於敏」は「「於て」があったら『受身』と『比較』⁹⁶により、「貴たつとし…形容詞」でなく「貴たつとぶ…動詞」と読まれているので、比較ではない。そこで「〜より」の①③はキズ。「貴たつとぶ…動詞」なので受身のはずであり、⑤「敏に貴たつとばれ」は一見正解。しかし「ヒトに貴たつとばれ」「モノにさえぎられ」は受身表現として可能だが、「敏」は概念・考えであってヒトでもモノでもないので受身は無理。たしかに「愛に支えられて…」という表現はあるが、「彼女の愛に支えられて」のように、何かを支える愛は、支柱となるに足るだけの固さをもったモノに変化してい

る。

②は「…也、…」を「なり、…」と読んでいるのがキズ。「なり」は終止形だから「…なり。」の形で文末にしかこない。「…也、…」と読めない受験生は音読不足。例文や過去問で何回も登場するよ。

そこで残った④が正解となるが、読みから(i)の正解に至ろうとしてもまず無理だったのでは。

問4〔主張〕シセ 第二段落後半の「二子(顔回・曾参)は皆自ら敏ならずと言ふ」と、問3で作業した傍線C「どうして本当に敏でない者か。

いや、敏である者だ。」を組み合わせると、「二人はみずからは『敏』ではないと言う。(しかし) どうして本当に敏でない者か。いや、敏である者だ。」となり、「みずからは『敏』でないとはいつつも、実際は…『敏』である態度で取り組んだ」とする①が正解。問3でしつかり悩んでいないと下手な消去法を使うことになる。

問5〔主張〕漢 第三段落末尾は論文の結論部分だからオシリから 読むと

わかるよ お結論により第二段落の最後と同じ内容となる。第二段落の最後では「敏」を主張しているから、「遜」と「敏」を比べる第三段落でも、「遜」^「敏」となる。あとは次のように書き下し文にあてはめるだけだ。なお、コレだけ漢字がたくさん登場している。蓋¹⁵、雖

142、然 148、則 150。

「蓋しⅠ遜は美德と雖も、然れども必ずⅡ敏ならば則ち功有り。…
重んずる所は尤もⅢ敏に在るなり。」↓正解⑤

問6〔主張〕 【主張をつかむ】作業で(i)の正解は①「第三段落は筆者自身の見解」だったね。

念のため他の選択肢を解説すると、②「社会通念(社会常識)への批判」はキズ。「社会の常識では、謙遜の方が敏より美德だ」といった語句は原文にない。④「筆者の時代における認識」はキズ。⑤「読者への問題提起」はキズ。問題提起とは「このような事態を放置してよいのか!」といった表現。

また①と③について再検討すると、①の「具体的に実践した歴史上の人物の例」は、孔子、顔回・曾参そうしんという具体的人物が証拠。③は「儒家思想家一般の見解」がキズ。原文が「世の儒は皆『…』と言ふ。」などとなっていれば「具体的例」の反対の「一般の見解」となる。

(ii)設問の「筆者の意図」とはまさに筆者の主張なので、

最初と最後で 筆者は主張

という大原則により、最終段落の最初の一文と最後の一文を慎重に理解する。最後の一文は「遜より敏を重視せよ」という結論。最初

の一文は「自らいやしむるをなして、みずからつとむる…を思はざるは、これ退くを知りて進むを知らずと謂ふ。」ここで「いやしむ・つとむ」、「退く・進む」と「遜・敏」の対応を整理すると、「遜」は「謙遜」の「遜」なのだから、「遜∥いやしむ∥退く」△「敏∥つとめる∥進む」だろう。そこで次のような関係となる。

いやしむ 退く 遜

> > >

つとむ 進む 敏

すると、④の「みずから（進んで）能動的に努力する（つとめる）ことが大切である。人の教えを受け入れている（例…私なんかとても先生の足元にも及びません、などと言って自らを卑下し、数歩退いて謙遜する）だけでは進歩しない」が正解となる。

問1〔漢〕〔注〕（2）「所以」^{ゆゑん}の読みと訳は「ゆえん・理由」。でも選

択肢に「理由」がないので、「説明・注で正解つかめ！」で注を見直す
と、注2はやたらと長い。これは出題者の誘導なのだからこれを使わない手はない。注2の「徳を修める方法」は傍線（2）前後の「卑しむ・強む、退く・進む、遜・敏」なのだから、正解は④の「方法」。

⑤の「目的…」のため「理由…」だから」に近いので正解の可能性もあるが、原文を翻訳する権限は出題者にあるのだから、迷うこと

なく注に従っておこう。

なお、「所以」^{ゆえん}には「方法・手段」の意味もあるが、受験生の負担を最小にするため、コレだけ漢字に追加しない。出題頻度の低い知識を増やすより、よく使う解答技術に慣れた方が得だよ。